

高専初

難関コンテストで1位

専攻科2年野口さん アナログ集積回路を設計



快挙の野口さんと7位の山内さん

国内唯一のアナログ集積回路(LSI)の設計コンテスト「平成二十三年演算増幅器設計コンテスト」コミュニケーション部門で、有明高専専攻科二年生の野口卓朗さんが一位に、電子情報工学科五年生の山内将敬さんが七位に入賞した。高専在校生が一位を獲得するのは初めて。野口

さんは二位とは思わなかったのでビックリ。授賞式で大企業の担当者から名刺を頂き、すごいことだなと実感しましたと話した。

コンテストは、電子回路の汎用能動素子である、演算増幅器の設計を通じて、アナログ集積回路技術全般を習得し、即戦力となる技術者の育成を目的に開催されている。入賞者も東京工業大学など、国内でも研究が進んでいる大学、大学院生がほとんどで、高専

専攻科から一位に輝くのは野口さんが初めてという。有明高専では以前、同じコンテストで四位に入賞。現在は設計者として活躍している卒業生もいるという。

指導した、石川洋平准教授は「ソニーや東芝など、日本でも有数の企業が協賛しており、授賞式では、企業の担当者がスカウトするような場所。高専専攻科からの一位は、快挙なのは」と驚いていた。「二位の評価は、実際に

試作したときに、きちんと動くように考えたことが評価を受けたようです。佐賀大大学院に進学する予定ですが、今後も研究に取り組んでいきたいですね」と野口さん。

七位に入賞した山内さんは「中学生のころから電子回路を見るのが好きで、高専に進学し、電子回路の設計に興味を持ちました。卒業後は、関連産業に就職しますが、就職先で回路の設計の仕事をしてみたいですね」と語った。

野口卓朗さん 有明高専専攻科二年生 大学、大学院生などがLSIのなかの集積回路の設計を競う、演算増幅器設計コンテ

た。高専専攻科からの受賞は、初めての快挙と聞いています。授賞式に招かれ、東京工業大学にいったとき、ソニーなど日本を代表

の設計ですが、実際に試作したときにきちんと稼動するように設計したことが評価されたようです。

が、文化会館や市内に中学校、高校で上映され、大牟田には四回、帰ってきました。「もう一つのなでしこジャパン」というキャッチフレーズでしたが、当時は「なでしこジャパン」を知



ストのシミュレーション部門で一位を獲得しました

する集積回路設計会社の方々から名刺を頂き、びっくりしました。設計は、消費電力の少なさなどを競います。コンピューター上

中村和彦さん 映画監督 東京に住んでいます。今年、聴覚障害者の女子サッカーを撮影した映画「アイ・コンタクト」

田には四回、帰ってきました。「もう一つのなでしこジャパン」というキャッチフレーズでしたが、当時は「なでしこジャパン」を知

電動車椅子のサッカーを撮影しています。「アイ・コンタクト」は撮影に三年かかりましたが、今回は何年かかるかまだ分かりません。

# おむねサロン



「なでしこジャパン」を知